

エネルギー政策に関する意見箱

1. 氏名	岡田 宏 (元日本国有鉄道 常務理事・技師長)
2. 年齢	80 代以上
3. 性別	男性
4. 連絡先	
5. 御意見及び その理由	<p style="text-align: center;">(意見)</p> <p>エネルギー政策は科学的知見に基づいて決定すべきである</p> <p style="text-align: center;">(理由)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 太古の昔、ヒトは火を自在に操る事を学び他の動物とは顕著に異なる異常な速さで進化を遂げ、宗教や文学・音楽などの芸術を理解・発展させ、豊かな文明社会を築き上げるに至った。遙かに時代が下がり、蒸気機関の発明に端を発した産業革命を経て生産能力は著しく向上し地球上の多くの人々が貧困状態を脱して、日常生活を謳歌している。一貫してその進歩の背景にあるのは、エネルギー源とエネルギーを生み出す方法の進歩である。エネルギーは社会活動全般の貴重な活力源であり、国内にこれといったエネルギー源を持たない日本が、その確保のために無謀な戦争に突入した事は吾人の記憶に新しい。 2. 第二次世界大戦後に急速な進歩を見せた「原子力を制御しつつ利用する発電方式」は、須臾の間に底をつく事が必須である化石燃料による発電方式に取って代わる主力の方式として大きな期待が寄せられていた。 3. 併しながら、2011年3月11日に日本列島を襲った稀有な規模の津波により放射線放出事故を惹起した事は誠に不幸、かつ遺憾な事態であった。この事故は、原子力発電所を過酷な条件下に於いても意の如く制御する事の難しさを世に知らしめたが、その反省の上に立ってフィルターベントの設置、防潮堤の建設、緊急給水車の配置などの様々な対策が実施され、原子力発電所の安全性は事故前と比較して著しく向上している。 4. また、多くのの人達が救世主として信じ込んでいる再生エネルギーの主力である太陽光や風力は、天候に左右される不安定電源であり、その活用に欠かすことが出来ない大容量かつ長寿命の蓄電設備の開発と実用化は「百年河清を俟つ」に等しい。 5. それにも拘らず、上記二つの事実は全くと言って過言でないほどマスコミに取り上げられず、その結果「原子力発電所は危険が一杯なので即刻廃止し、その代替は原発と同様に環境に優しい再生エネルギーによるべきである」という声が世に充ち満ちている。 6. 多くの人達から意見を聴取しそれに基づき政策を決めるというのは一見尤もらしく思える。しかし、ポピュリズムはドイツではナチスを生み、日本では軍部の台頭を許した事を忘れてはならない。エネルギーの長期計画は、もっぱら科学的知見に基づいて定めるべき社会百年の大計であり、安易なポピュリズムに流されることがあってはならない。